

令和2年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和2年6月25日(木) 14:00から15:55まで
場 所	蒲郡市役所 303会議室
出席者	(委員) 18名出席 ※別紙出席者名簿のとおり (事務局) 子育て支援課: 部長、次長、主幹、課長補佐、課長補佐、指導係長、主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・ 資料1 子ども・子育て支援事業計画の令和元年度進捗状況の点検・評価について ・ 資料2 令和2年度子ども・子育て会議の日程について ・ 資料3 次世代育成支援行動計画の進捗状況について ・ 委員名簿 ・ 子育てコンシェルジュだより、子育て支援ガイドブックにここに

議事: (進行) 事務局 高橋晃市民福祉部子育て支援課長

○健康推進課長(代理岡本保健師) 欠席

○資料の確認

1 あいさつ

(渡辺会長) どうぞよろしくお願いいたします。コロナ禍で大変な中、皆様のお顔を見て会議をできることがとても嬉しいです。感染予防のため3～5月は家で過ごしていました。学校も突如休校になり心配な日々でした。

私の家の近くに高校生のお子さんがいらして、休校中なので夕方に楽器の練習をしています。ただ練習しているなど思っていたのですが、その練習を聞くことがいつの間にか日課になってきて、練習の音を聞くのが楽しみになってきました。我が家の家族も楽しみにしていて、私たちの共通の話題になっていきました。小さなことだけでもそこに「ある」ということは本当に大切なことですね。ようやく子どもたちに日常が戻ってきて、大変なことはたくさんあると思いますが元気に通ってほしいと思います。先生方も元気で明るくやっていただきたいです。

私はこの会議に出るのは3年目で、教員を定年退職した後、平成30年度からこの会議に参加させていただいています。子どもは2人おります。孫はまだおりませんが、この会議にご出席の委員の皆さんと協力して子どもたちにとってよりよい環境を整えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2 市民福祉部長あいさつ

(市民福祉部長) 市民福祉部長の岡田です。昨年度は子育て支援課長として事務局側におりました。毎回緊張しておりましたが今年度は少し心に余裕をもって会議に臨めそうです。さて、子育て支援は、市の最重要施策と位置付けられています。子ども子育て会議は、子育て支援の各種事業が円滑に実施できているか委員の皆様へ評価いただき、改善のご意見を

頂戴する場で、本市の子育て支援事業の中核をなすものです。今回評価いただいている計画は第1期（平成27年から令和元年度まで）の5年間の最終年度のものになります。第1回の子ども子育て会議は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面会議になりましたが、それでも委員の皆様からたくさんのご意見を頂き感謝しております。今年度は8名の新たな委員を就任していただきました。今後も活発にご意見をいただき、充実した会議になりますことをお願い申し上げます。

3 委員の紹介

（各委員の自己紹介）

4 「蒲郡市次世代育成支援行動計画」、「蒲郡市子ども・子育て支援事業計画」について

○事務局 高橋子育て支援課長より説明

5 議題

(1) 副会長の選出について

（渡辺会長） 要綱第5条に基づいて、会長が委員の皆様の中から指名することになっております。副会長には主任児童委員の尾崎様をお願いしたいと思います。

承認の拍手

(2) 子ども・子育て支援事業計画の令和元年度進捗状況の点検・評価について

●事務局白井から説明
評価書の見方の説明

●事業番号1 1号認定（3歳以上保育の必要なし）

（事務局松井からの説明）

質疑応答

なし

●事業番号2 2号認定（3歳以上保育の必要有り）

（事務局松井からの説明）

質疑応答

（津田委員） 書面でも読ませていただきましたが、みどり保育園に申込が集中した理由に、「低年齢児から受け入れをしている」「開所時間が長い」と書かれてありますが、これについて、他の保育園でも同様の開所時間の延長、もしくは低年齢児の受け入れを検討するという予定はありますか。

（事務局高橋） 低年齢児保育と延長保育のニーズは年々高まっていて、これに応えていきたいと思っています。塩津地区の塩津北保育園は年々入園者が減って、今年度末で廃園になります。このため、塩津保育園で来年度から新たに低年齢児保育を開設するように準備を進

めています。公立保育園のサービスは園によって違いますが、なるべく利用者の要望に応えていきたいと思っています。

(渡辺会長) ありがとうございます。みどり保育園の園長先生、何かありますか？

(河合委員) ありがとうございます。本園の名前を出していただいて大変光栄に思います。鹿島子ども園さんは、2年前まではみどり保育園と同様、民間経営の保育所でした。民間ということで、みどり保育園では土曜日の保育が他の保育園と比べて長く実施をしています。それ以外では、保育の内容について、鹿島子ども園さんと同様、保護者に対して、保育の内容や園の方針を明確に伝え、理解を得て、年々入所希望者が増えてきた経緯があるように思います。現在みどり保育園は定員140名です。当初100名弱の定員から始まり、少しずつ定員を増やしてきました。ただ、本園では、保育園を大きくすることが「子どもたちの生活の場」としてふさわしいのかどうかを常に精査し考えています。私の中での理想は120名定員ですが、ニーズもある中、子育て支援課と相談をして140名の定員でお願いをしています。定員を制限するという一方で、受け入れを躊躇していると思われがちですが、こういった背景がございます。このように様々な地域から、利用者がみどり保育園を選んでくださることは、私たち保育士のかげがえのない喜びです。定員を制限していることで、このような現象が強く表面化されてしまったと感じます。公立・民間園がより良い保育を目指しそれぞれ保育環境を整えられていると思います。

(津田委員) それぞれの保育園でのニーズとバランスを調整していただき、入りたいと思った保育園に入れることが、子どもを産みやすい蒲郡に繋がっていくと思います。引き続き、調整をお願いいたします。

(渡辺会長) 課長さんから先に話があったように、グランドデザインについて進めています。今日もこの会議の前に第1回の会議がありました。皆さんでノウハウを出し合って良い環境に整えていきたいと思っています。よろしくをお願いいたします。

●事業番号3 3号認定（3歳未満保育の必要あり）

(事務局松井からの説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号4 時間外保育事業（延長保育事業）

(事務局松井からの説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号5 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

(教育委員会庶務課柴田委員説明)

質疑応答

(渡辺会長) ありがとうございました。今年度は西部小学校に児童クラブができたとのことで、私が現役の頃に比べたら飛躍的な速さでクラブができていると感じます。需要もあるのだなと感じます。この件について何かありますか。

- (山本委員) 資料の7番【委員から出された課題等について】に書かれている、「夏休みだけでも受付してもらえらるから」というのは、「年度当初から申し込んでおかなければ、夏休みに利用することができない」ということがなくなり、必要な時に必要な人が利用できる制度になっているという意味で書きました。
- (渡辺会長) 以前、三谷東小に勤めていた時の児童クラブは、人数が多くて本当に大変そうでした。なにかご苦労されたことはありますか。
- (柴田委員) 新型コロナウイルスの関係で、直前で利用を変えたいなど、その都度その場で、臨機応変に対応しなければいけない場面が多かったので難しかったです。
- (渡辺会長) 本当に苦労されていることをお察しします。しかし需要も増えている。クラブがつまらないという意見もあるが、そのあたりも含めて検討をお願いしたいです。
- (七原委員) 児童クラブの職員の質について気になります。知り合いの子どもが、児童クラブで靴紐を切られたと主張したが、クラブの職員に、「本当にうちで起きたことなの」と言われたようです。資料にも書かれているが、職員の質について調査をしていただきたいです。
- (柴田委員) そういうことがないようにしっかりと対応していきたいと思います。
- (渡辺会長) ありがとうございます。大変難しい問題だと思います。研修などしていただいて質の向上にも努めていただければと思います。

●事業番号6 子育て短期支援事業（ショートステイ）

(事務局伊藤から説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号7 地域子育て支援事業（子育て支援センター事業）

(事務局小林から説明)

質疑応答

(渡辺会長) この事業には「うみのこ」も入りますか？

(事務局小林) 入りません。中央子育て支援センター、西部子育て支援センター、東部子育て支援センターの3つです。

●事業番号8 一預かり事業

(事務局岩瀬から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 「預かり保育」と「一時預かり」の概念が難しいと思いながら聞きました。何かありますか。

所見の欄に「無償化対象事業になった為、保育士に書類作成等の事務が増えた」とありますが、こういう仕事は事務員が行い、保育士は本来の保育の仕事に専念できるようにならないでしょうか。

(事務局金沢) 食事とおやつにかかるお金は、無償化の対象外の部分です。「食べた・食べなかった」をその場で見ているのは保育士ですので、どうしてもやらざるを得ないです。

(渡辺会長) 保育士さんが本当に大変だと思います。もう少し何とかなるといいのにといます。

(事務局伊藤) 先ほどの補足説明です。無償化対象額には上限があります。例えば幼稚園の預かり保育と保育園の一時預かりを併用する場合があります、その利用額が単独ではなく合算して判定されます。つまりこれは単純に、幼稚園なら幼稚園の利用額だけ無償にすれば済むという話ではないのです。無償化に伴う事務の煩雑化による保育士の負担増は蒲郡市だけではなく全国的に起きていることと思われま

●事業番号9 病児保育事業

(事務局岩瀬から説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号10 子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター)の就学児童対象部分

(事務局伊藤から説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業番号11 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)

(事務局白井から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 新型コロナウイルスの関係で、街角コンシェルジュはできなかつたのでしょうか。

(事務局白井) そうです。色々なイベントも軒並み中止になり、出かける機会を失っていました。街角コンシェルジュは最近少しずつ開催していますが2月から5月までの4ヶ月間街角コンシェルジュを行っていません。

(渡辺会長) 自粛期間中にも相談はあるのですか。

(事務局白井) はい。子育て支援課には電話や来庁される方など、多くありました。また、包括支援センターでは転入してきた方のお手伝いなどを行いました。

●事業番号12 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問)

(岡本保健師から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 赤ちゃん訪問員になるには何か資格が必要ですか。

(岡本保健師) こちらが企画する「赤ちゃん訪問員養成講座」を受けていただいた方を、赤ちゃん訪問員として認定しています。

(渡辺会長) お若い方ですか。

(岡本保健師) 30代から70代までの方が認定を受けています。

●事業番号13 養育支援訪問事業

(岡本保健師から説明)

質疑応答

(渡辺会長) 資料の7番【委員から出された課題等について】に書かれている、2つ目の「支援世帯(家庭)は継続して行われていると思います。改善されるような取り組みはあるか」のことについて回答が難しかったのでしょうか。

(岡本保健師) お答えしてなくて申し訳ありません。「改善」が、保健師の訪問・相談で解決でき

ないこともあります。ショートステイや保育園などを利用して、育児ストレスの高いときに一度、子どもと離れて、母親のストレスを軽減して改善していているのが現状です。保健師だけではできなくて、子育て支援センターのコンシェルジュさんに毎週話を聞いてもらったり、保育士さんに話を聞いてもらったり、そんな風にストレスを改善して子育て支援に繋がっています。

(渡辺会長) ありがとうございます。検診の時だけじゃなくて、その後も色々なところに支援を繋げているということですね。

●事業番号14 妊婦健康診査

(岡本保健師から説明)

質疑応答

委員からのご意見は特になし

●事業全体をとおして

(市民福祉部長) 新しく委員になられた方の中には、計画値と実際の数字があまりにも違うと思われる方もいらっしゃると思います。これは、第1期の計画を作るときに事前にアンケートをとり、そのアンケート結果のみに基づいて作ったものが第1期の計画です。本日お配りした第2期の計画は平成27年度からの5年間の実績を加味して作られています。したがって、この数字の乖離は第2期から修正されていくものとご理解ください。

(3) 次世代育成支援行動計画の進捗状況について

●資料3 次世代育成支援行動計画について事務局白井から説明

(渡辺会長) 何かご意見、ご質問ありますか。

(山本委員) まず、障害児保育ですが、蒲郡市は、居住する地域で、お子さんが、ハンディキャップをお持ちの方が、通っている学区で見えていただいているようで、感謝しています。私に関わり始めた平成12年とか13年の頃は市内で障害をお持ちのお子さんを対象にしたのが5園くらいで、地区外に通わなければいけないということから、すべての保育園で必要な保育をしていただけるようになった。それに伴い、受けていただくお子さんの数も増えていった。昔は明らかにハンディキャップがあると思われるお子さんが対象だったのに対して、発達にでこぼこした気がかりさがあるお子さんが対象になって受けていただけてきたという経緯がございました。いろいろな保育園で見えていたので先生たちもいろいろなお子さんと関わる機会が増えて、それももちろん保育スキルが上がってきていると思っています。その一方で児童発達支援事業の利用者は増え続けている。その子たちも、保育園、幼稚園にお送りしている。統合保育できるお子さん、集団保育で過ごすことができるお子さんを保育園にお繋ぎしている。そういうお子さん集団の中でやれるようになって、ふれあいの場から卒業した子が、加配の先生が付いていて、2年目になると、クラスの先生で当面見ていけることになって、加配が外れていくということがあります。これについて特段困っていることはないですが対象の子は増えているけれど、見られている子どもは減ってという事実がある、ということをこういう場で話題に出してお聞きしたいと思いました。

(事務局金沢) ありがとうございます。現場では、ふれあいの場や児童発達支援センターでしっかり丁寧に見ていただいた子どもは落ち着いて過ごせています。ありがたいと思っています。集団の生活に入っただけの子どもの中には支援をした方がよいと思いますので支援を付けています。担任の一言でクラスに入っただけであれば、小学校を見据えて観察児として見ております。小学校との連携は大事です。3歳児、4歳児に上がったときに、観察児として見ているけれども、やっぱり支援を付けたほうがいいねということになれば、支援を付けています。

(山本委員) 話をしながら進めさせていただいているのでここについて何か異議があるわけではございません。幼保無償化となり、保育園だけでなく幼稚園と並行利用している人がとても増えています。幼稚園との併用が特に今年度増えています。幼稚園の方と模索しながら一緒にやっていきたいと思っています。こんな風に変化がいろいろあるんだよということをお伝えしたく発言しました。

(渡辺委員) 対象の子どもは減っているけれど、山本さんのところを利用している子どもは減っていないということですか。そうすると漏れている可能性もあるということ？

(山本委員) 漏れているというか、うちから(保育園・幼稚園に)通っている子どもが、加配児の対象から外れて行って、観察児として丁寧に見ていただいているから、保育園や幼稚園で気がかりなところがある子どもが途中からよく繋がるようになってきて、利用者が増えてきたよという流れがあります。変わってきたよという実感があります。

(渡辺会長) それは、良く変わってきたという意味？

(山本委員) はい。色んなお子さんが利用できるようになったなど。

(渡辺会長) 一番最初に併用できる、と書かれたことも、同じようなことなのでしょう。

(山本委員) はい。無償化に伴い、併用するお子さんが増えました。

(渡辺会長) 子どもたちにとっての環境が、さらに良くなっているということですね。数字や言葉だけでは見えないこともあると思います。そんなことも、気づいたことがあったら教えていただきたいと思います。

永田委員から、資料の訂正

(4) 令和元年度子ども・子育て会議の日程について

- 資料4 令和2年度子ども・子育て会議の日程について事務局白井から説明

(5) その他

- コンシェルジュだより、子育て支援ガイドブックにここに の配布説明

以上